



効率の良い配送ルートを組み ムダなコストを削減

ここでは、「ドライバーを活かす！配車のコツ」と題して、配車を行う上での注意や考慮すべき点などを紹介していきます。今回は、運送事業において永遠のテーマである「効率の良い配送ルート」の概要についてお話しします。

効率の良い配送ルートとは

配送ルートを考える上で、効率を求めることは避けて通れません。これは、効率が悪ければ無駄な費用が発生し、収益を圧迫しかねないからです。そのため、配車担当者はつねに「効率」と向き合っているのが実情です。また、自身で効率の良い配送ルートを構築したと思っても、納品先数や荷量の増減によって配送ルートは変化するため、ルートはその都度修正していかなければなりません。

しかし、そもそも効率の良い配送ルートとはどういったルートなのか？これは各社によって、異なると思いますが、ひとつあげるとすれば費用の最小化ではないでしょうか。

費用の最小化について

費用は大きく分けると、「ドライバーの人件費」、「燃料費」の2つの項目に分けることができます。

ドライバーの人件費（拘束時間）は、トラック運送業の総経費で最も多い約39%※を占めます（燃料費は約19%）。従って、効率の良い配送ルートの実現は、「ドライバーの拘束時間を最小化する」とも言えます。

ではドライバーの拘束時間の最小化を実現するためには、どのような対策をとれば良いでしょうか？具体的な対策を次に示しました。

- ①渋滞の回避
- ②走行時間の最短化
- ③運行中における待機時間の削減

①「渋滞の回避」については、自然渋滞などを考えると配車担当者が対策を立てることは難しいです。そのため②「走行時間の最短化」、③「運行中における待機時間の削減」がドライバーの拘束時間を減らすポイントです。しかし、②③のみを求めると、速度超過や急進・急ブレーキの頻度も多くなるため、自動車事故にもつながりかねません。従って安全を確保した上で、効率の良い配送ルートを考えることが重要になります。

では、どういったルートを組むべきなのか？代表的な例としてあげられるのが、日本の交通事情にマッチした「反時計回り(左回り)」の配送です。こうしたルートが、なぜ効率的なのか？次号では、その理由を具体的に解説します。

※出典：公益社団法人 全日本トラック協会「経営分析報告書平成26年度決算版」

鈴木敦大（すずき あつひろ）

船井総研ロジ株式会社 ライン統括本部 コンサルティンググループ所属。
大手食品会社の物流子会社では配車業務などを経て、現在はグローバル企業(自動車メーカー)の輸配送効率化プロジェクト、大手産業資材メーカー物流子会社の現状分析&評価などに携わる。
これまでの経験を活かし、物流における輸配送コストに特化したコスト削減提案、支援を実施している。